

植民地の人からみる帝国

【講師プロフィール】

■ 講師：張 信氏

(韓国学中央研究院人文学部・助教授)

成均館大学校(韓国)にて博士学位を取得、博士(文学)。現在は韓国学中央研究院人文学部の助教授。研究テーマは「1930～40年代における思想転向政策の研究」である。著書に「1907～1945年における集会結社と弾圧法令」(2022)や「1941年『朝鮮臨時保安令』の制定と運用」(2023)などがある。

■ 講師：清水 美里氏

(名桜大学国際学部・准教授)

東京外国語大学大学院博士後期課程を修了、博士(学術)。立教大学経済学部の助教を経て、2022年より現職。日本植民地期台湾で建設された嘉南大圳の研究に20年近くかけ台湾・日本で史料を集めた。著書に『帝国日本の「開発」と植民地台湾—台湾の嘉南大圳と日月潭発電所』(2015)などがある。

■ 講師：倉田 徹氏

(立教大学法学部・教授)

東京大学大学院総合文化研究科博士後期課程修了、博士(学術)。2003～06年に在香港日本国総領事館専門調査員。金沢大学国際学類准教授などを経て、現職。著書に『香港政治危機』(東京大学出版会、大平正芳記念賞)。『中国返還後の香港』(名古屋大学出版会、サントリー学芸賞)などがある。

入場無料・事前登録制

監修：安部 清哉 (東洋文化研究所長)
司会：莊 卓 燐 (東洋文化研究所助教)
蔣 允 杰 (東洋文化研究所助教)

開催形式

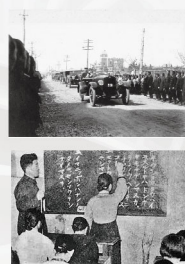
ハイフレックス型
にて開催



1920年代における朝鮮総督斎藤実の統治政策と世論

張 信 氏(韓国学中央研究院人文学部・助教授)

斎藤実(さいとう じつ)は朝鮮総督の就任中に「文化政治」を推し進めたことから、前任者の寺内正毅が行った「武断政治」とよく比較される。元を辿れば、彼は三・一運動の直後に赴任したため、朝鮮人の民心や世論の動向を常に意識せざるを得なかった。統治の安定化を図るために推進した朝鮮人新聞や制限的な出版、結社と集会の許可などはその産物であり、その評価をめぐり当時朝鮮人の間でも賛否が分かれていた。本講演では、三・一運動(1919)や六・一〇万歳運動(1926)、光州学生運動(1929)を通じ、斎藤総督のいわゆる「文化政治」を新たな視点から紹介する。

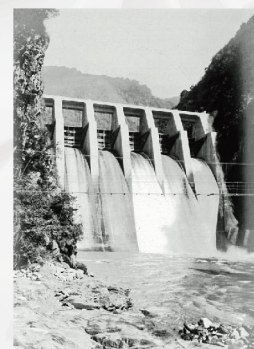
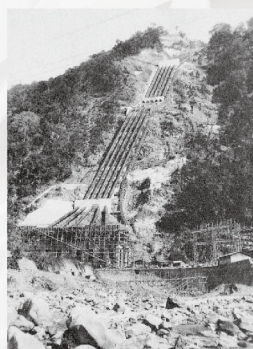


ダムから考える植民地台湾

—嘉南大圳事業と台湾人エリートのかかわり—

清水 美里 氏(名桜大学国際学部・准教授)

嘉南大圳(かなんたいしゅう)事業は、台湾の日本植民地期に建設された巨大な用水路である。嘉南大圳は、日本でも台湾でも八田(はった)与一(よいち)という日本人が建設に携わったことに注目が集まってきた。しかし当時の資料を読み込んでいくと、台湾人の若きエリートたちが嘉南大圳事業で生じた様々な困難の解決のために尽力していたことが分かった。本講演では植民地という環境下における台湾人エリートの奮闘について紹介する。



香港：未完の脱植民地化—国民統合か、民主化か—

倉田 徹 氏(立教大学法学部・教授)

香港は帝国の支配下で目覚ましい工業化・経済成長を遂げ、20世紀末まで植民地として存続した。しかし、植民地状態からの脱却という課題は、むしろ1997年の「祖国復帰」による植民地状態の終結後において尖鋭な政治問題となり、2010年代には世界を震撼させる大規模な民主化運動を呼んだ。中国政府と香港市民の双方が考える「脱植民地化」とは何かを、国民統合と民主化というキーワードを中心に考える。



学習院大学東洋文化研究所

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1(学習院大学 北1号館4階)

■JR山手線目白駅 徒歩1分

TEL:03-5992-1015 FAX:03-5992-1021

E-mail:ori-off@gakushuin.ac.jp

URL:<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/rioc/index.html>

